

總索引

總 索 引

編集・校閲

吉川幸次郎

小川環樹

中國詩人選集

昭和三十四年五月二十三日 第一刷発行 ©
昭和三十六年九月二十日 第三刷発行

定価二二〇円

編者

吉川幸次郎
小川樹環

発行者
東京都千代田区神田一ツ橋二丁目三番地
岩波雄二郎

印刷者
東京都青梅市根ヶ布三八五番地
山田一雄

発行所

東京都千代田区
神田一ツ橋二ノ三
株式会社

岩波書店

落丁本・乱丁本はお取替いたします

凡 例

- 1 この索引は、詩題索引、詩句索引、語句索引の3部分から成る。いずれも著者の与えたよみ下し文にしたがって採録する。したがって現代かなづかいにより、それを五十音順に排列した。
- 2 末尾の難読字索引は、読み方を知りにくい漢字、あるいは特殊な読み方をした漢字の、検索のためである。康熙字典の部首に分け、画数で排列した。その字体は新字体によるが、部首なり画数は旧字体で引くのであって、旧字体が括弧内に示されている。
- 3 各部分についての注意として次の事項があげられる。

(イ) 詩題 各巻の目次の記載による。

(ロ) 詩句 同じ詩句が2度以上あらわれる場合、同巻ならば一括し、別の巻ならば、別項とする。

例 蜀道の難きは青天に…………… 李下 23, 24, 26

城春にして草木…………… 杜上 47

城春にして草木…………… 説 103

なお、王維の巻に附載された裴迪^{はいてき}の詩の句と、唐詩概説にみえた詩の句も、ふくまれている。

(ハ) 語句 原則として、著者が語釈にとりあげたものとする。但し、詩句ぜんたいに注をほどこしたものははぶき、その句の中から必要な単語をとり出して、それにかえた場合がある。すべて五十音順であり、後に漢字をあげる。同音であって漢字が異なる場合は、巻とページの順に並べた。

例 こはく 狐白 曹 44

こはく 琥珀 李上 49

なお漢字を読み下したものは、読み下しによる。

例 (a) ぞくにかのうのしらべ 適俗韻 陶 26

(b) りゅうすいのごとし 若流水 李上 48

つまり (a) (b) は、「てきぞく」「じゃくりゅうすい」では示されない。例外として、詩経国風の語釈には、注者がとくに音ルビを

凡 例

与えているので、音読に統一し、よみ下しによらない。

例 こうきゅう 好逑 風上 30

(よみ下し詩句では、よきつれあい とある)

4 この索引は、原則として、各巻の初版本によって作成した。

5 巻数標記は次の略号による。

1 詩経国風 上(風上) 2 詩経国風 下(風下) 3 曹植(曹)

4 陶淵明(陶) 5 寒山(寒) 6 王維(王)

7 李白 上(李上) 8 李白 下(李下) 9 杜甫 上(杜上)

10 杜甫 下(杜下) 11 韓愈(韓) 12 白居易 上(白上)

13 白居易 下(白下) 14 李賀(賀) 15 李商隱(商)

16 李煜(煜) 17 唐詩概説(説)

6 索引の編集にあたったのは、京都大学大学院学生、入谷仙介、小栗英一、島田久美子、吉田富夫である。

目 次

詩題索引	5
詩句索引	21
語句索引	195
難読字表	343
跋	吉川幸次郎 …357

詩 題 索 引

吁嗟貧にして復た病む：寒 31
 秋来る：賀 59
 秋荊門を下る：李上 53
 秋に宣城なる謝朓の北楼に登る：李上 64

秋の思い：李下 123
 鷓鴣の剣：白上 214
 早に漁浦潭を発す：説 45
 朝の雨を観る：説 11
 雨を喜ぶ：曹 97
 或いは行を銜う人あり：寒 183
 行在所に達するを喜ぶ 三首：杜上 48
 晏坐閑吟：白下 152
 安身の処を得んと欲せば：寒 111
 杏を梁と為す：白上 179

い

遺愛寺：白下 159
 家に在りて出家す：白下 210
 家に寒山の詩あらば：寒 195
 家は緑巖の下に住す：寒 110
 欽湖：王 53
 倚嗟：風下 117
 韋仁実兄弟の関に入るを送る：賀 165
 渭川の田家：王 154
 徒らに蓬門を閉ざして坐し：寒 81
 徒らに勞して三史を説き：寒 94
 一人好き頭肚：寒 30
 一斛珠：煜 39
 一生作すに慵懶し：寒 166
 蝗を捕う：白上 66
 古しえより諸もろの哲人も：寒 187
 韋兵曹に餞す：説 34
 渭陽：風下 209
 倚蘭操：韓 74
 殷其雷：風上 79
 陰山の道：白上 158
 飲酒 二十首并びに序：陶 36
 飲中八仙の歌：杜下 15
 飲馬長城窟行：説 30
 殷遙を哭す：王 161
 殷遙を哭す：王 164

う

烏江：説 84
 烏棲曲：李下 42
 歌を聞く：商 34
 禹廟：杜上 130
 馬を駆せて荒城を度ぐれば：寒 148
 海漫漫たり：白上 30
 烏夜啼：李下 41

烏夜啼：煜 27
 烏夜啼：煜 74
 烏夜啼：煜 82
 愁いを開く歌：賀 113
 雲居寺に遊び、穆三十六地主に贈る：白下 135
 雲陽館にて韓紳と宿して別る：説 129

え

永王東巡歌 四首：李上 206
 衛八処士に贈る：杜下 96
 謁金門：煜 160
 越裳操：韓 77
 越女の詞 五首：李上 155
 越中覽古：李上 69
 燕燕：風上 109
 怨歌行：曹 171
 宛丘：風下 215
 塩州に城く：白上 74
 兗州の城楼に登る：杜上 21
 怨情：李上 154
 塩商の婦：白上 175
 塩商婦：説 137
 偃息す深林の下：寒 67
 園田の居に帰る 五首：陶 25
 園有桃：風下 128
 遠遊篇：曹 146

お

姪良が二妓を携えて会稽に赴くを送り、戯れに此の贈有り：李上 133
 横江詞 六首：李上 186
 王粲に贈る：曹 45
 王十八の山に帰るを送り、仙遊寺に寄題す：白下 137
 王主簿季哲が「怨情」に和す：説 11
 王昭君：李下 70
 王昌齡が竜標に左遷さるるを聞き、遙かに此の寄あり：李上 95
 応氏を送る 二首：曹 29
 王孫を哀しむ：杜下 49
 王大昌齡の江寧に赴むくを送る：説 117
 応天長：煜 162
 汪倫に贈る：李上 93
 憶江南 その一：煜 102
 憶江南 その二：煜 103
 憶江南 その三：煜 104
 惜しむ可し：杜上 109
 弟に示す：賀 30
 自ずから見る天台の頂：寒 73
 懐いを述ぶ：杜下 58
 憶う昔し過逢せし処：寒 37

か

懷州の呉別駕を送る：説 132
 会昌二年の春、池西の小楼に題す：白下 213
 艾如張：賀 139
 外弟盧綸の宿せらるるを喜ぶ：説 128
 凱風：風上 125
 邇路行：曹 139
 瓜園の詩 並びに序：王 156
 鏡に感ず：白下 88
 郭主簿に和す 二首うち一首：陶 116
 客中行：李上 49
 客亭：杜上 115
 閣夜：杜上 180
 岳陽楼に題す：白下 164
 岳陽楼に登る：杜上 198
 岳陽楼に登る：説 104
 下愚我が詩を読めば：寒 194
 影形に答う：陶 177
 華原の磬：白上 38
 河広：風上 229
 重ねて憶う：李上 80
 重ねて何氏に過る 五首：杜上 37
 重ねて聖女祠を過る：商 41
 重ねて題す：白下 155
 華山女：韓 106
 華子岡：王 41
 夏日山中：李上 25
 花上の黄鶯子：寒 89
 賀遂員外を送る：説 147
 賈生：商 123
 下泉：風下 259
 形の影に贈れる：陶 175
 葛屨：風下 123
 葛生：風下 173
 葛覃：風上 33
 常て聞く漢の武帝と：寒 116
 桂の樹の行：曹 184
 葛藟：風下 27
 河南府試十二月樂辞並びに閏月 十三首
 うち七首：賀 45
 庚戌の歳、九月中、西田に於いて早稲の
 穫す：陶 113
 庚子の歳、五月中、都より還るに、風に
 規林に阻まる 二首：陶 99
 辛丑の歳、七月、赴仮して江陵に還らん
 とし、夜、塗口を行く：陶 104
 峨眉月月の歌：李上 212
 何彼穠矣：風上 90
 下邳の圯橋を経て張子房を懷う：李上 70
 画鷹：杜上 24

荷葉盃：煜 134
 身あるか与た身なきか：寒 164
 感有り 五首うち二首：杜上 118
 寒巖深くして更に好し：寒 69
 官来らず皇甫湜先輩の序に題す：賀 169
 官牛：白上 188
 漢宮詞：商 122
 閑居に自ずから題す：白下 68
 閑吟：白下 161
 官軍の河南河北を収むと聞く：杜上 116
 簡兮：風上 147
 浣溪沙：煜 33
 浣溪沙：煜 75
 浣溪沙：煜 150
 浣溪沙 その一：煜 125
 浣溪沙 その二：煜 126
 浣溪沙 その一：煜 166
 浣溪沙 その二：煜 167
 漢広：風上 51
 閑坐：白下 181
 寒山此の語を出だすに：寒 193
 寒山に一宅あり：寒 132
 寒山には唯だ白雲のみ：寒 145
 寒山に蝶虫あり：寒 114
 閑山の月：李下 67
 寒山の道を登陟れば：寒 41
 寒山幽奇多し：寒 47
 鸛雀楼に登る：説 107
 官舎小亭の閑望：白下 37
 閑眺：風上 29
 感情：白下 90
 寒食汜上の作：王 77
 寒食の夜：白下 171
 澗底の松：白上 132
 甘棠：風上 72
 韓碑：商 188
 感諷 五首：賀 93
 干旄：風上 194
 雁門の太守の行：賀 37
 芄蘭：風上 227
 觀獵：王 113

き

淇奥：風上 205
 岐王に従い楊氏の別業を過う 応教：王 100
 岐王を送りて楊氏の別業を過り教に応ず
 ：説 45
 聞道く愁い遣り難しと：寒 77
 擬古 九首うち六首：陶 184
 貴公子夜闌の曲：賀 36
 龜山操：韓 76
 岐山操：韓 81

喜遷鶯：煜 41
 来る日は大いに難しに当う：曹 179
 帰鳥：陶 201
 帰田：説 147
 昨う雲霞観に到りしに：寒 119
 昨う河辺の樹を見しに：寒 154
 棄婦の詩：曹 111
 君看よ葉裡の花：寒 91
 帰夢に題す：賀 188
 客有り：杜上 89
 客至る：杜上 102
 客寒山子を難ずらく：寒 70
 客中の月：白下 77
 宮娃の歌：賀 89
 九戩：風下 293
 宮槐陌：王 49
 宮詞：商 120
 九日 五首うち一首：杜上 190
 九日閑居 並びに序：陶 131
 九日西原に登りて宴望す：白下 44
 九日藍田の崔氏の荘：杜上 59
 九日竜山の飲：李上 44
 宮中行樂詞 八首：李下 102
 丘中有麻：風下 34
 久別離：李下 72
 樛木：風上 40
 旧遊を憶い、譙郡の元参軍に寄す：李上 97
 驕兒の詩：商 143
 俠者に逢う：説 24
 羌村 三首：杜下 63
 峽中の石上に題す：白下 166
 京より奉先県に赴くときの詠懷、五百字：杜下 34
 玉階怨：李下 97
 玉階怨：説 13
 曲江：商 38
 曲江 二首：杜上 54
 玉山村叟の壁に題す：説 57
 玉楼春：煜 29
 御製、蓬萊宮従り興慶に向う閣道中の作に和し奉る 応制：王 142
 去年春鳥鳴く：寒 62
 漁父 その一：煜 66
 漁父 その二：煜 67
 漁父 その一：煜 91
 漁父 その二：煜 93
 金郷にて韋八の西京に之くを送る：李上 129
 錦瑟：商 29
 錦瑟：説 79
 勤政楼の西なる老柳：白下 177
 金屑泉：王 57

琴操 十首：韓 71
 斤竹嶺：王 44
 禁中にて夜書を作り、元九に与う：白下 140
 金銅仙人漢を辞するの歌 並びに序：賀 72
 金鑾子を念う：白下 86
 金陵の酒肆にて留別す：李上 123
 金陵の図：説 92
 金陵の鳳凰台に登る：李上 59

く

箜篌引：曹 123
 偶然の作：王 101
 寓目：杜上 78
 九月九日山東の兄弟を憶う：王 76
 九月九日山東の兄弟を憶う：説 113
 九月十日即事：李上 45
 苦篁調嘯引：賀 144
 箜篌の引：賀 148
 吁嗟篇：曹 175
 草茫茫たり：白上 199
 瞿唐の兩崖：杜上 179
 虞美人：煜 63
 虞美人：煜 84
 虞部蘇員外の藍田別業を過られ、留まれざるの作に酬ゆ：王 107
 晩に樂郷県に次る：説 107
 暮に山村を過ぎる：説 69
 暮に立つ：白下 145
 君子于役：風下 14
 君子偕老：風上 176
 君子陽陽：風下 16
 群女夕陽に戯むる：寒 103

け

形影神 並びに序：陶 173
 螢火：杜上 82
 荊軻を詠ず：陶 159
 溪居：説 73
 荊州の歌：李下 71
 京兆の韋参軍が東陽に量移せらるるを見る：李上 83
 刑部尚書もて致仕す：白下 212
 鷓鴣：風下 93
 荊門西より下る：商 108
 荊門を渡りて送別す：李上 125
 景陽の井：商 135
 桂林：商 106
 擊鼓：風上 120
 月下の独酌：李上 23
 月出：風下 229
 月夜：杜上 44

月夜江行して崔員外宗之に寄す：李上 104
 蕤葭：風下 194
 元九に別れて後、所懷を詠ず：白下 79
 元九の悼亡詩を見、因って此れを以て寄す：白下 138
 乾元中、同谷県に寓居して作れる歌 七首：杜下 135
 卷耳：風上 36
 元二の安西に使用するを送る：王 81
 賢士は貪婪ならず：寒 13
 褰裳：風下 70
 建德江に宿す：説 44
 劍門：杜下 145
 倦夜：杜上 129
 権輿：風下 211
 阮郎婦：煜 62

こ

公安県の懷古：杜上 196
 公讌：曹 27
 浩歌：賀 55
 黄鶴樓にて孟浩然の広陵に之くを送る：李上 124
 黄家洞：賀 77
 江漢：杜上 202
 高官谷口に鄭鄠を招く：説 135
 羔裘：風下 56
 羔裘：風下 165
 羔裘：風下 238
 高句驪：李下 119
 高軒過：賀 162
 行行且遊獵篇：李下 50
 浩浩たり黄河の水：寒 139
 高高たる峰頂の上：寒 80
 嘖嘖として魚肉を買い：寒 178
 香山寺に暑を避く：白下 204
 高式顔に贈る：杜上 57
 香積寺を過う：王 112
 郊嶼：説 34
 江上：杜上 134
 江上吟：李上 178
 江上の呉処士を憶う：説 68
 候人：風下 252
 紅線の毯：白上 141
 江村：杜上 92
 公孫大娘の弟子の劍器を舞うを觀る行并びに序：杜下 169
 黄鳥：風下 199
 江亭：杜上 106
 狡童：風下 68
 江頭に哀しむ：杜下 54
 江南にて、李龜年に逢う：杜上 204

江南の兄弟に寄す：白下 81
 江南の兄弟に寄す：説 142
 考槃：風上 209
 皇甫岳の雲谿の雜題 五首：王 30
 衡門：風下 220
 公門を出づる無かれ：賀 159
 後遊：杜上 97
 江有汜：風上 86
 拘幽操：韓 79
 羔羊：風上 77
 行露：風上 74
 更漏子 その一：煜 114
 更漏子 その二：煜 116
 更漏子 その三：煜 118
 江樓の曲：賀 173
 行路難：李下 52
 香鑪峰下、新たに山居を卜し、草堂初めて成り、偶たま東壁に題す：白下 154
 香鑪峰下、新たに草堂を置き、事に即して懷を詠じ、石上に題す：白下 62
 香鑪峰に上る：白下 158
 估客の行：李下 128
 胡笳の歌、顔真卿が使して河隴に赴むくを送る：説 49
 孤雁：杜上 176
 黒潭の竜：白上 205
 谷風：風上 134
 古原草を賦し得て、別れを送る：白下 133
 五絃を弾ず：白上 87
 粵に寒山に居みてより：寒 56
 志を秉って巻くべからず：寒 65
 心高くして山嶽の如く：寒 125
 神の釈：陶 180
 快よき哉混沌の身は：寒 184
 五松山下の荀媪の家に宿す：李上 54
 故人の莊を過る：説 46
 古跡を詠懷す 五首：杜上 164
 胡旋の女：白上 47
 五年の秋、病後独り香山寺に宿す 三絶句：白下 208
 古風 その一：李下 132
 古風 その三：李下 135
 古風 その五：李下 139
 古風 その六：李下 142
 古風 その七：李下 144
 古風 その八：李下 146
 古風 その九：李下 148
 古風 その十：李下 150
 古風 その十一：李下 152
 古風 その十二：李下 153
 古風 その十四：李下 156
 古風 その十五：李下 158

古風 その十八：李下 160
 古風 その十九：李下 164
 古風 その二十三：李下 167
 古風 その二十四：李下 169
 古風 その二十六：李下 171
 古風 その三十四：李下 172
 古風 その四十：李下 176
 古風 その四十八：李下 178
 古風 その五十四：李下 180
 古風 その五十九：李下 181
 古風 その三十一：説 144
 古朗月行：李下 83
 子を責む：陶 119
 今日巖前に坐すれば：寒 78
 昆明の春：白上 69

さ

歳晏行：杜下 177
 崔員外と同じく秋の宵に寓直す：王 103
 塞下、張僕射に和す、六首のうちその二：
 説 24
 采葛：風下 30
 塞下の曲：賀 175
 塞下の曲 六首：李下 89
 載駟：風下 114
 采詩の官：白上 217
 崔氏の東山の草堂：杜上 61
 采桑子 その一：煜 43
 采桑子 その二：煜 45
 載馳：風上 197
 采蘼：風上 65
 采蘋：風上 70
 采芡：風下 177
 採蓮曲：李下 79
 採蓮子 その一：煜 122
 採蓮子 その二：煜 124
 沙邱城下にて杜甫に寄す：李上 94
 朔風：曹 98
 昨夜郷に還るを夢み：寒 57
 酒に対して賀監を憶う 二首并に序：李
 上 77
 酒に対す：白下 196
 酒罷み張大徹贈を索む時に張初めて謫幕
 を効く：賀 81
 酒を酌みて裴廸に与う：王 145
 酒を把って月に問う：李上 37
 酒を止む：陶 170
 佐山後に還る：説 139
 左遷されて藍関に至り姪孫湘に示す：韓
 114
 左遷せられて藍関に至り姪孫湘に示す：
 説 110
 雑詩：曹 107

雑詩 三首：王 35
 雑詩 十二首うち八首：陶 77
 雑詩 六首：曹 53
 会ること有りて作る 并びに序：陶 134
 三月行宮を過ぐ：賀 103
 三月蚕は猶お小さし：寒 102
 三月三十日慈恩寺に題す：白下 134
 山客心悄悄たり：寒 109
 三峡を上る：李上 51
 山居秋暝：王 118
 山居秋暝：説 133
 山居即事：王 109
 山居即事：説 139
 残形操：韓 89
 三五七言：李上 170
 三五の癡かなる後生：寒 124
 山寺に宿す：説 69
 残糸の曲：賀 28
 三字令：煜 142
 山中：説 33
 山中送別：説 108
 山中何ぞ太はだ冷やかなる：寒 50
 山中にて幽人と対酌す：李上 26
 山中間答：李上 46
 山中より裴秀才廸に与うる書：王 196
 山有樞：風下 152
 山有扶蘇：風下 65
 三良の詩：曹 65

し

緇衣：風下 40
 慈恩寺にて感有り：白下 176
 自勸に和す：説 138
 式微：風上 142
 鴈鳩：風下 256
 鷓鴣：風下 278
 子衿：風下 78
 紫毫の筆：白上 190
 梓州の李使君を送る：王 110
 時人雲路を尋ぬるも：寒 54
 時世の粧：白上 163
 死生元と命あり：寒 151
 七哀：曹 117
 七月：風下 265
 七月三日、内学に在りて高近道が挙徴せ
 られて関西の客舎に宿し、東山の巖・
 許二山人に寄する有るを見る：説 142
 七夕：賀 32
 七徳の舞：白上 19
 七歩の詩：曹 120
 漆園：王 63
 日月：風上 114
 蟋蟀：風下 148

十畝之間：風下 135
 駟騶：風下 186
 司天台：白上 63
 紫藤樹：李上 161
 児に示す：韓 132
 暫く下都に使用して、夜新林を発し、京邑
 に至り、西府の同僚に贈る：説 10
 暫く白帝に往きしが、復た東屯に還る：
 杜上 193
 縛られたる戎人：白上 102
 子夜歌：煜 31
 子夜歌：煜 72
 鵲巢：風上 63
 鵲踏枝 その一：煜 153
 鵲踏枝 その二：煜 155
 鵲踏枝 その三：煜 156
 沙県より尤溪县に抵り、泉州の軍過ぎて
 後、村落皆空しきに値い、因って一絶
 有り：説 89
 謝公亭：李上 73
 子夜呉歌 四首：李下 124
 謝新恩 その一：煜 54
 謝新恩 その二：煜 56
 謝新恩 その三：煜 57
 謝新恩 その四：煜 59
 斜川に遊ぶ 并びに序：陶 122
 車鄰：風下 183
 樹あり林に先だつて生ず：寒 161
 秋懷の詩 十一首：韓 49
 秋興 八首：杜上 149
 從軍行：王 172
 從軍行：李上 167
 愈斯：風上 42
 秋日：説 114
 秋日晚思：商 84
 從祖済南の太守に陪し鵲山湖に泛ぶ：李
 上 36
 從孫の済に示す：杜下 30
 舟中に晩く起く：白下 186
 舟中にて元九の詩を読む：白下 147
 終南：風下 197
 終南山：王 117
 終南山に遊ぶ：説 66
 終南山を下り斛斯山人を過りて宿し置酒
 す：李上 34
 終南の別業：王 126
 重賦：白下 19
 終風：風上 117
 秋浦の歌 十七首：李上 192
 秋夜：説 60
 秋野 五首うち三首：杜上 184
 秋夜独坐：王 106
 秋夜旅懷：説 140

隱有蓑楚：風下 243
 種葛篇：曹 159
 叔于田：風下 46
 熟食の日に、宗文と宗武に示す：杜上
 182
 述懷：説 31
 出其東門：風下 82
 出塞 二首その一：説 21
 出城権璣楊敬之に寄す：賀 29
 出生三十年：寒 40
 酒病偶作：説 91
 茱萸詩：王 48
 春怨：李上 152
 春興：説 124
 春江：白下 170
 春日懷を寄す：商 83
 春日の閑居：白下 70
 春日野行：説 87
 春日李白を憶う：杜上 27
 鶉之奔奔：風上 183
 春女容儀を銜い：寒 106
 遵大路：風下 58
 春中田園の作：王 115
 春望：杜上 47
 春望：説 104
 春坊正字の劍子の歌：賀 34
 春夜雨を喜ぶ：杜上 104
 春夜竹亭にて錢少府の藍田に歸るに贈
 る：王 173
 春夜洛城に笛を聞く：李上 168
 春夜洛城に笛を聞く：説 113
 椒園：王 65
 常娥：商 55
 嫦娥：説 78
 小寒食舟中の作：杜上 205
 將婦操：韓 72
 上皇西のかた南京を巡るの歌 二首：李
 上 210
 昌谷読書巴童に示す：賀 104
 昌谷の詩：賀 123
 商山早行：説 87
 商山の路にて感有り：白下 174
 商山の路にて感有り并びに序：白下 183
 情詩：曹 50
 小戎：風下 188
 將進酒：賀 183
 小星：風上 84
 松声：白下 40
 相鼠：風上 192
 牆高からんと欲する行に當う：曹 169
 城中蛾眉の女：寒 88
 將仲子：風下 42
 城南に戦う：李下 44

少年：商 90
 少年行：李下 118
 少年行 三首：王 86
 少年を嘲ける：賀 189
 妾は邯鄲に在って住む：寒 101
 妾薄命 二首：曹 190
 上平田：王 33
 牆有茨：風上 173
 襄陽の歌：李上 172
 襄陽の曲 四首：李下 97
 上陽の白髪人：白上 41
 常楽里の閑居：白下 33
 椒聊：風下 158
 女曰鵲鳴：風下 60
 女冠子 その一：煜 136
 女冠子 その二：煜 137
 徐幹に贈る：曹 38
 食後：白下 67
 蜀相：杜上 87
 蜀僧濬の琴を弾ずるを聴く：李上 160
 蜀道難：李下 23
 食を乞う：陶 168
 食を説くとも終に飽かず：寒 127
 初月：杜上 79
 諸公の過わるるに酬ゆ：王 148
 諸將 五首うち二首：杜上 138
 諸人と共に周家の墓の柏の下に遊ぶ：陶 126
 書判全く弱れるに非ざるに：寒 96
 汝墳：風上 54
 黍離：風下 9
 書を読むも豈に死を免れんや：寒 97
 史郎中欽と黃鶴樓上に笛を吹くを聴く：李上 30
 新安官舎閑坐：説 140
 新安の吏：杜下 100
 溱洧：風下 86
 辛夷塢：王 62
 新樂府 并に序：白上 17
 秦吉了：白上 211
 神絃：賀 180
 神絃の曲：賀 177
 新穀尚お未だ熟せず：寒 179
 新婚の別れ：杜下 110
 尋思す少年の日：寒 99
 人日帰るを思う：説 16
 沈子福の江東に帰るを送る：王 82
 秦州雜詩：説 133
 秦州雜詩 二十首うち九首：杜上 63
 新昌の所居に題す：白下 174
 新晴の晩望：王 124
 人生塵蒙に在り：寒 115
 人生百に満たざるに：寒 84

新台：風上 163
 秦中吟 并びに序：白下 19
 秦王飲酒：賀 60
 辛未七夕：商 95
 晨風：風下 204
 新豊の臂を折りし翁：白上 52
 潯陽樓に題す：白下 60
 仁和里雜叙皇甫湜：賀 84

す

酔花間：煜 140
 隋宮：商 136
 酔後徙甥の高鎮に贈る：李上 85
 酔中紅葉に対す：白下 161
 隋堤の柳：白上 194
 垂老の別れ：杜下 115
 崇義里滯雨：賀 106
 騶虞：風上 93
 嵩山に帰りての作：王 120
 沙を蒸して飯と作さんと擬し：寒 162
 炭を売る翁：白上 152
 李の花：商 79

せ

齊安の城樓に題す：説 82
 西閣の夜：杜上 146
 青溪：王 175
 清溪行：李上 213
 清溪の主人に宿す：李上 90
 西湖の留別：白下 190
 生死の譬えを識らんと欲せば：寒 87
 静女：風上 161
 清人：風下 53
 青石：白上 115
 棲遲す寒巖の下：寒 122
 西亭：商 88
 井底銀瓶を引く：白上 183
 成都府：杜下 149
 清平樂：煜 60
 清平樂：煜 158
 清平調詞 三首：李下 114
 静夜の思い：李下 120
 青陽駅に宿す：説 123
 西涼の伎：白上 122
 西樓に独り立つ：白下 206
 積雨輞川莊の作：王 140
 石龕：杜下 133
 石壕の吏：杜下 107
 石城の曉：賀 117
 碩人：風上 211
 碩鼠：風下 141
 磧中の作：説 51
 赤壁：説 83

世間一等の流：寒 188
 世間の事を推尋するに：寒 176
 絶句 四首うち一首：杜上 126
 絶句 二首：杜上 125
 絶句漫興 九首うち五首：杜上 98
 石鼓の歌：韓 90
 拙詩を編集して一十五巻と成し、因って
 巻末に題して、戯れに元九・李二十に
 贈る：白下 150
 蟬：商 86
 還：風下 96
 千雲万水の間：寒 79
 山海経を読む 十三首うち五首：陶 150
 宣州開元寺の水閣に題す：説 82
 宣州の謝朓楼にて校書叔雲に餞別す：李
 上 142
 宣城郡内にて登望す：説 11
 宣城にて杜鵑の花を見る：李上 169
 宣城郡に之き、新林浦を出でて板橋に向
 う：説 10
 宣城の善釀紀叟を哭す：李上 148
 泉水：風上 151
 錢徵君少陽に贈る：李上 91
 前陂に汎ぶ：王 123
 前有樽酒行 二首：李下 56

そ

草閣：杜上 144
 相勸酒：賀 153
 宋記室の「省中」に和す：説 11
 霜月：商 82
 早行：説 82
 莊子送終を説いて：寒 149
 早秋、諸子と虢州の西亭に登りて觀眺
 す、低字を得たり：説 111
 早春王漢陽に寄す：李上 115
 層層として山水秀で：寒 46
 草虫：風上 67
 桑中：風上 180
 草堂：杜下 158
 躋登たり諸もろの貧士：寒 28
 草堂に別る：白下 162
 走馬川行：説 48
 僧壁に題す：商 118
 送別：王 27
 送別：王 78
 送別：王 170
 相逢行：李下 72
 素冠：風下 241
 族叔刑部侍郎曄及び中書賈舍人至に陪し
 洞庭に遊ぶ 五首：李上 39
 促織：杜上 80
 息夫人：王 23

蘇小小の歌：賀 40
 蘇台覽古：李上 68
 訴衷情：煜 145
 楚の昭王の廟に題す：韓 118
 以も我が棲遲の処は：寒 48
 孫二を送る：説 144
 村夜：白下 144

た

太原の早秋：李上 49
 太行の路：白上 58
 第五弟の豊、独り江左に在り、近ごろ三
 四載、寂として消息無し、使を覓めて
 此を寄す、二首うち一首：杜上 147
 泰山梁甫行：曹 149
 大車：風下 31
 大叔于田：風下 48
 太子李舍人の別業に暑を逃く：説 57
 大堤の曲：賀 38
 大堤の曲：李下 101
 戴天山の道士を訪うて遇わず：李上 32
 代白頭吟：説 36
 誰が家か長しえに死なざらん：寒 152
 蓼兮：風下 67
 沢陂：風下 233
 宅を傷む：白下 25
 楽しみ有らば且く須らく楽しむべし：寒
 83
 潭州：商 104
 潭州を発つ：杜上 200

ち

竹竿：風上 224
 竹枝 その一：煜 96
 竹枝 その二：煜 97
 竹枝詞：白下 167
 築城詞：説 67
 竹里館：王 61
 竹里館：説 44
 致仕せず：白下 29
 智者よ君は我れを抛うち：寒 74
 致酒の行：賀 91
 池上二絶：白下 202
 池上の閑吟：白下 200
 雉朝飛操：韓 85
 中元に作る：商 53
 中谷有蓷：風下 21
 中宵：杜上 141
 籌筆駅：商 128
 緇繆：風下 160
 株林：風下 231
 著：風下 98
 長干行：李下 80